

感染状況と対策について

<感染状況について>

- 全国の新規感染者数は過去最多の水準。大都市圏の感染拡大が波及することにより、新たな地域での感染拡大の動きも続き、全国的に感染が拡大。大都市における感染を抑制しなければ、地方での感染を抑えることも困難。
- 大阪府では、大阪市の11月下旬以降営業時短地域における人流の減少が見られ、実効再生産数が1近辺。12月中旬から新規感染者がやや減少傾向。しかし、関西圏で、京都は増加が継続、兵庫は高止まりの状況。
- 飲食などの社会活動が活発な20 - 50歳代の世代の感染が多く、大都市圏も含め直近の感染拡大では、飲食をする場面が主な感染拡大の要因と考えられる。
この世代では感染しても無症状あるいは軽症のことが多いため、本人が意識しないまま感染拡大につながり、それが、家庭内、医療機関や高齢者施設等での感染につながっており、重症者が増加している要因にもなっていると考えられる。(2行めは12/16アドバイザリーボード資料より抜粋)

【押谷先生】(令和2年12月3日 アドバイザリーボード資料「国内移動と感染リスク」より抜粋)

- 国内の移動歴のある例では移動歴のない例に比べて二次感染の頻度は高い。
- 感染して移動している症例数は圧倒的に若年層に多い。また移動した後に二次感染を起こした人も若年層に多い。
- 移動に伴って他の地域に感染を広げているのも主に若年層。
- 二次感染を起こした人の89%は若年層(10歳代から50歳代)。家庭内感染でも二次感染を起こした人の多くが若年層。
- 人流が1%減少すると2次感染(実効再生産数)は0.99倍程度。



<必要な対策>

- シナリオ3(感染拡大継続地域)及び2(感染高止まり地域)相当地域においては取組の強化が必要。感染拡大が見られる場合には、飲食店の時短要請等の対策も検討する必要がある。
- 市民の皆様には忘年会や新年会を避けるとともに、年末年始の買い物も混雑を避けるなど静かな年末年始を過ごしていただくよう、適切かつ強力なメッセージの発信が求められる。

現在直面する3つの課題

【現在直面する3つの課題】（令和2年12月23日 第19回分科会資料より抜粋）

課題①：首都圏からの感染の染み出し

課題②：感染者の多くは20-50歳代 二次感染者の多くも20-50歳代

・県境を越えた移動あり⇒周辺への染み出し、地方の歓楽街等への拡散

・県境を越えた移動なし⇒地域内での感染拡大

・**歓楽街や飲食を介しての感染が感染拡大の原因**：家庭内感染や院内感染は感染拡大の結果である

課題③：感染拡大の重要な要素の一つ 飲食を介しての感染

・東京などの都市部では、感染経路不明の割合が多い（東京都では約6割）。この感染経路不明がわからない者の多くは、**飲食店における感染によるもの**と考えられる。

（理由）

a クラスタ分析の結果、日常生活の中では、**飲酒を伴う会食**による感染リスクが極めて高く、クラスタ発生 of 主要な原因の一つ。

b 感染経路が判明している割合の高い地方でも、飲酒を伴うクラスタ感染が最近になっても多く報告。

c 欧州でもレストランを再開すると感染拡大に繋がることが示されている。

⇒急所を押えることができれば感染を収束させることが可能。

1 忘年会・新年会などについて：食事の際の会話は、**飲酒の有無、昼夜・場所にかかわらず、感染が生じやすい場面。**

①食事は**静かに**いただきましょう

②**家族・いつもの仲間**で、**5人以上は控えて、すいている場所**を選びましょう。

③おしゃべりするときは**マスク着用**。少なくともハンカチなどで**口元をおさえ**ましょう。

2 年末の買い出しや初売りについて

少人数で、混雑する時間を避けてお出かけください。

3 帰省について

感染防止策を徹底して、大人数の会食は避けてください。そうした対応が難しい場合には**帰省について慎重に検討**してください。

その他（AI等シミュレーション）

- 普段接している人の中で生活していれば、感染伝播は局在化し、大きくは広がらない。
行動性が高まり、その枠を超えると、局所的ネットワーク間の結合性が急速に高まり、クラスターが起きやすくなり、さらに行動性が高まるとクラスター連鎖に至る。

<シミュレーション>

- 営業時間を短くした飲食店において、同伴者を同一の会社の部署内の人 4 名に限定した場合、会社間での飲食をした場合と比較して0.7倍まで感染者数を抑制する効果がある。（繁華街での感染防止策）
 - ・ 会社間（自社 + 他社）の人たちと飲食をした場合に比べて、**自社内の人に限定すると0.83倍、部署内に限定すると0.76倍まで感染者数は減少**
 - ・ 時短をした居酒屋で部署内に限定した飲食をすると、0.70倍まで感染者数は減少
 - ・ **飲食の範囲を限定することは、ある程度効果がある。**
- 行動自粛の方策の検討
 - ① 感染爆発の予防は、**会う人を学校や職場などのコミュニティ内に限定すれば、行動自粛しなくても顕著な感染拡大はしない。**ただし、通常生活の中でコミュニティ外の人と接触機会が多い人（Wが大きい人）が相当いると感染爆発を起こす可能性。（今後、自粛の効果検証予定）
 - ② **早い段階で個々人が行動自粛をやめてコミュニティ外との接触を増やすと、収束せずに感染者が継続して発生。**



- ◇ 「知らない人や最近会っていなかった人との接触を避ける」
- ◇ 「久しぶりに」、「たまには」、「今回は特別」の行動で新しい人との接触することを避ける
- ◇ Stay with your community